

第13回エコプレミアムクラブシンポジウム  
大転換・Transformation

2016年8月3日

慶應義塾大学経済学部

細田 衛士

# 「大転換」といえば…

- 「大転換」といえば思い出されるのはカール・ポランニーの『大転換』。
- 1944年の著書、市場社会（市場経済を中心に持つ社会）の矛盾、崩壊を予言。
- ポランニーの考え方は的中したのか？
- 現代の混迷を考えると、あながち否定もできない。
- 今の経済社会はどこかおかしい。

# しかし…

- 「市場経済をやめよう」とか「社会主義に移行しよう」という動きはほとんどない。
- アメリカの大統領選挙民主党の大統領候補選考で、バニー・サンダースが「社会民主主義」的な発言をしたが、それは「小転換」に過ぎず、「大転換」とは言えない。
- なぜ、サンダースがかくも人気を博したのか？
- それは、アメリカの若年層・貧困層が今の経済社会に対して嫌悪感を持っているから。
- 特に金融資本の暴走はひどい。

# 金融資本主義の暴走

- 良く知られているように、リーマンショックはウォール街を中心とした金融資本の暴走によるもの。
- 今、アメリカでは民主党だろうが共和党だろうが、ウォール街から多大な献金を受けているので、ウォール街の暴走を止めることができない。
- ヨーロッパでも似たり寄ったり。
- そこに出てきたのが、エスタブリッシュメント階層に対する批判、嫌悪。⇒トランプ現象

# でも不思議！

- でも不思議なのは、トランプを支持する層に若年層、低所得層も多いという点。
- トランプは大金持ち。
- トランプが大統領になっても、若年層・低所得層の経済状況は良くなるらない、多分。
- ただ、「現体制」（今そこにいるエスタブリッシュメント：ヒラリー・クリントンに代表される）がいやだからトランプに投票する。
- 転換の方向が明らかにおかしい。

# 轉換の方向を間違えると…



ヒトラーは極めて民主的な方法でドイツの全権力を握って行った。民衆の支持も大きかったのだ。

Adolf Hitler, 1889-1945

# さてヨーロッパだが、EUはどうなるのか？

- 自分たちの価値観が普遍的と思っている限り、深刻な事態は変わらない。
- あれだけの移民を受け入れつつ、彼らには自分たちの国の文化に同化するよう半ば強要する。
- しかも明瞭な差別が存在する。
- テロリストを生み出してしまいう要因がそこにある。
- 更に、EUという夢をどこまで追いつけるのかが大いなる疑問。

# EU官僚主義に対する批判

- EUの官僚主義もかなり肥大化した。
- 肥大化するEUの官僚主義をだれも止めることはできない。
- EUがEU指令を作ると、加盟国は好むと好まざるとにかかわらず、原則このEU指令に従って法律を策定・施行しなければならない。
- 肥大したEU官僚に対する嫌悪感も無視できない。
- 英国がとったBrexitという決断も、移民・難民の問題に加えてEUの中央集権主義に対する嫌悪感によるところが大きい。

# Rule Britannia

When Britain first at Heav'n's command  
Arose from out the azure main;  
This was the charter of the land,  
And guardian angels sang this strain;  
Rule, Britannia! Britannia, rule the waves:  
Britons never never never shall[will] be slaves.

この世のはじめ 神の命を受け  
碧海の中から興る ブリタニア  
「これこそ証 国の証ぞ」と  
守護天使らは斯く 歌い合えり  
続べよ、ブリタニア! 大海原を統治せよ  
ブリトンの民は 断じて 断じて 断じて 奴隸とはならじ

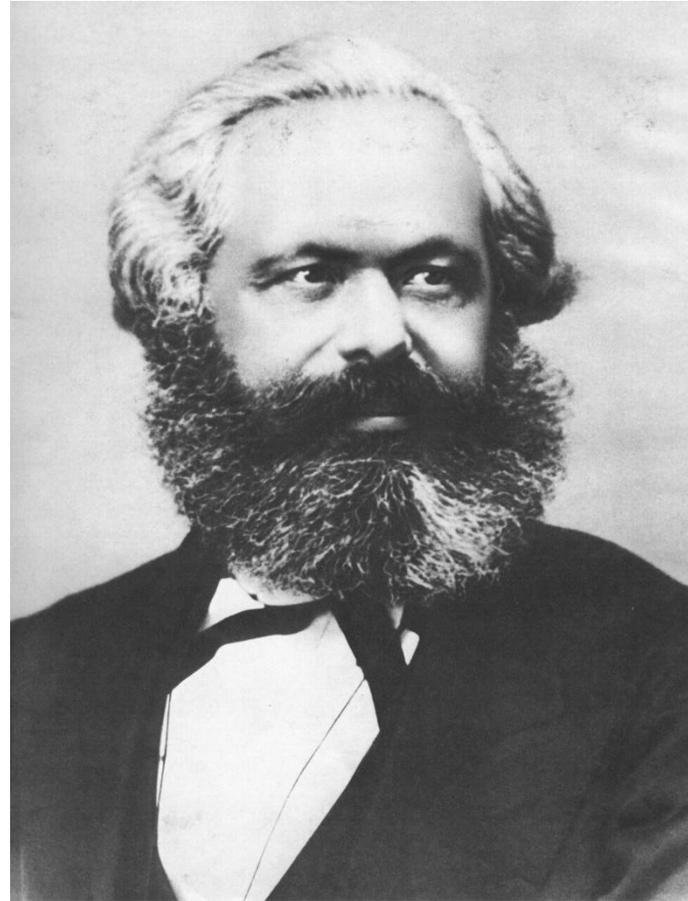
# 轉換の方向

- 今の経済社会がおかしいのはわかっている。
- では、どの方向に向かって舵を切れば良いのか。
- 資本主義がダメなら共産主義か、社会主義か。
- 市場経済がダメなら計画経済か。
- そんなものがうまく行くはずもない。
- 一国主義（Brexit）なのか多国連合主義（EU）なのか。

# 終末の資本主義、幻想の共産主義

- この表題は、拙著『環境と経済の文明史』（NTT出版）の一つの章のタイトル。
- 多くの人々が、今の資本主義（市場経済）はどこかおかしいと思っている。
- 格差社会、ストレス社会、金太郎飴型社会（フラットな社会、世界中でポケモンgo）、都市集中・過疎社会、人間疎外社会…。
- 多くの人々が「大転換」を心のどこかで期待しているのかもしれない。
- しかし、今更共産主義でもあるまい…。

# この人の預言ははずれ！

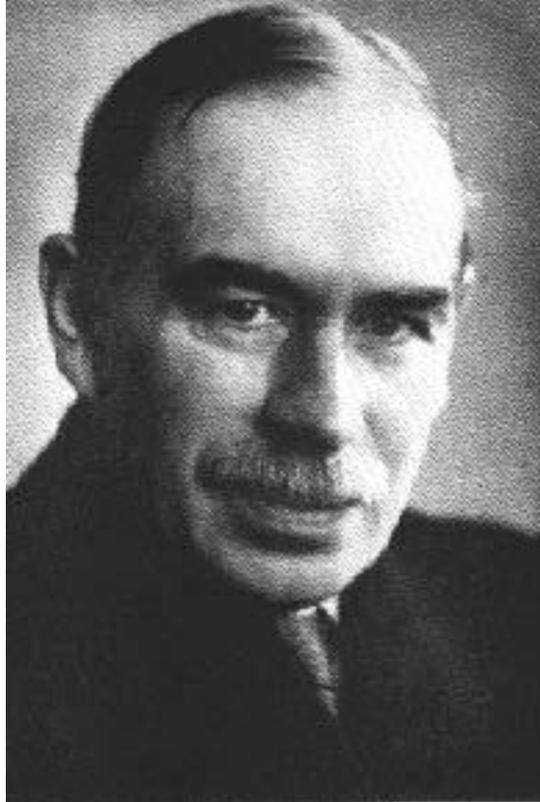


資本主義は崩壊し、共産主義に大転換すると考えた。しかし共産主義ほど悲惨な経済社会はなかった。確かに経済的には平等だったが、皆貧しく平等であった。しかも、国家の力に民衆が圧殺された。

Karl Marx 1818-1883

E. Hosoda, Faculty of Economics, Keio University

# この人の預言は半分当たったが...



資本主義経済では、有効需要不足による不況があることを見抜いた。しかし、今や財政政策・金融政策で有効需要は増やせない！

John Maynard Keynes, 1883-1946

# この人は日本を変えたのか？



坂本龍馬、1836-1867

司馬遼太郎が書かなければ、この人もそう有名にはなっていなかっただろう。

# この人が日本を変えるきっかけになった のでは？



アメリカ大統領フィルモアの親書を携えて来日、開国を要求した。



Matthew Calbraith Perry, 1794-1858

# 或はこの人が日本を変えたのか！



GHQの強権で日本を変えた。“I shall return.”

Douglas MacArthur、1880-1964

# 外圧がないと日本は変わらないのか

- 黒船が来た時も、マッカーサーが来た時も日本は大転換を遂げた。
- では、外圧がなければ日本は変わらないのか。
- いや、決してそうではない。
- 大中小に関わらず、日本を転換させた日本人もいる。

# この人は確かに日本を変えた！



めざしの土光さん！

土光敏夫は、国鉄、専売公社、電電公社の民営化を成功させた！こんな凄い転換があったのだ！

# さそれでは今どうするのか？

- それが誰もわかっていない。
- 預言できる思想家、哲学者もいなくなった。
- 仮に、誰かが来るべき未来を預言したとしても、どこか嘘くさい。
- つまり、資本主義経済、市場経済に代わるべきものを人類は見つけていないところに現在の不幸がある。
- つまり代替すべき経済社会像がないのだ！

# 思想・哲学なき社会の空虚さ

- テクノロジーの進歩は無限の感があるが、思想・哲学は停滞の感。
- 仮に、思想家や哲学者が何か言っても、次の一言で返す言葉がなくなる。
- 「それじゃ～、どうするの？どういう方向に進めばいいの？」
- 吉本隆明（1924-2012）を呼んでも方向性はわからない（吉本は偉大だが…）。

# テクノロジーだけは進歩する恐ろしさ！

- 今や、タダでテレビ電話を世界のあらゆる場所で交信できるようになった。
- 遺伝子レベルで生物のことがわかるようになった。
- 重力波もブラックマターもわかるようになった。
- クローンもできる。
- AIも現実のものとなった。
- しかし、肝心の人間の頭・精神がこうしたテクノロジーの進歩についていけない。
- 八方ふさがりかもしれない。どうするのか？

# 結論にかえて：五里霧中の転換

- 思想・哲学なき転換は、先の見えない転換。
- 仮に思想・哲学があったとしても、余り役に立たない。
- テクノロジーの進歩に人間の頭・精神がついてゆけない。
- 転換の方向性を誤ると、とんでもないことになってしまう。
- エスタブリッシュメントに対する嫌悪は今後も大きくなる。
- ではどうすればよいのか？
- 大転換の一つのお手本は“Brexit”かもしれない。
- 英国流プラグマティズムが一つの方向性を示している。